

令和4年度 (宮城教育大学附属特別支援学校) 学校の研究概要 ~令和5年1月末現在~
運営委員氏名 (菅原しのぶ, 渡部明希)

研究テーマ	「個別最適な学び」の実現を目指した授業づくり ~子供の学びをつなぐ「学習の個性化シート」活用の授業プラン~ (2年目副題)
研究の目的	「個別最適な学び」を実現するために必要となる、授業づくりの視点を明らかにするとともに、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」に基づいた授業づくりのプロセスとその有効性の検証を行う。
研究内容 ・方法 研究計画等	1) 研究期間：令和3年度から3年間 2) 内容と方法 (本年度は2年次) 【1年次】 (R3年度) 指導の個別化 1 「授業づくりシステム」の作成と活用 2 「教師の学び合い」を生かした授業づくり 3 「個別最適な学び」を目指した授業実践 【2年次】 (R4年度) 学習の個性化 1 「学習の個性化」の視点を踏まえた授業づくり 2 「授業づくりシステム」改め, 「M-FOCUS」としての機能の充実 【3年次】 (R5年度) 学習者自身による学びの自己調整
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	○研究経過 ・ 6月：公開研究会 「個別最適な学び」の実現を目指した授業づくり~授業づくりシステムの構築を目指して~について、研究成果を発表した。 ・ 9月：校内授業研究会1 「その子(対象児童生徒の設定)に合った学習方法を意識した授業づくり」を視点として、各学部1つずつ授業を提供し、授業研究を行った。 ・ 12月：校内授業研究会2 「学習集団全体を意識した授業づくり」を視点として、各学部1つずつ授業を提供し、授業研究を行った。 ○成果 ・ 日々の学習で行った指導の手立ての有効性を実践を通して検証し、有効な手立てを、一つに(GKシート)まとめていく(学びの蓄積)ことで、一人一人の児童生徒に合った手立てを教員間で共有し、「個別最適な学びの実現」を目指した授業づくりに生かすことができた。 ・ 自己評価や他者評価(教師)を工夫することで、子供自身が自己理解を深め、主体的に学習に取り組む姿(学びの自己調整)につながるということが示唆された。 ○課題 ・ 一人一人に合った目標設定を考える際、生活年齢や障害程度等の実態に応じて、よりスモールステップを踏んだり細分化したりする必要がある。 ・ 子供の自己評価に対する教師からのフィードバック(他者評価)の効果的な場面設定が不十分だった。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。